

1	学校教育目標
1	<p>綱領</p> <p>自主自律【進取の気象を涵養する】          質実剛健【好学の気風を養成する】          師弟同行【敬愛の美風を育成する】</p> <p>2 教育方針</p> <p>「くまもとの教職員像」、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「人権教育取組の方向」、「特別支援教育取組の方向」、「学校安全・安心推進課取組の方向」、「不登校対策重点取組事項」、「体育保健課取組の方向」、「社会教育課取組の方向」及び本校の綱領等に則り、生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、徳・知・体の調和のとれた生徒を育成する。</p> <p>3 教育スローガン</p> <p>探究する生徒の育成 ～学びを深める自分だけの「問い」を持つ～</p> <p>4 教育理念</p> <p>(1) 基本的生活習慣の確立、規範意識や豊かな人間性の育成【徳育】          (2) 基礎学力の定着、学習意欲の向上、国際性を高め探究する力の育成【知育】          (3) 特別活動や部活動の活性化をとおした健やかな心身の育成【体育】          (4) 進路希望の実現、望ましい勤労観・職業観の育成【進路希望の実現、自己実現】          (5) 保護者や地域社会、大学等の関係機関との連携・協働【開かれた学校】          (6) 業務改善と働き方改革の実現、ワークライフバランスの達成【信頼される教職員の育成】</p>

2	本年度の重点目標
1	<p>主体的・対話的で深い学びの視点からの新しい学びのスタイルによる学力向上・進路実現</p> <p>(1) 学びの質を高めるための、OJT等による授業方法の工夫・改善          (2) 年間の指導と評価の計画や観点別学習状況評価、成績評価規定の検証          (3) 生徒発表会や各種検定、各種大会等の積極的・戦略的な利活用による、個々の生徒への的確な支援          (4) 外部講師による講演会や企業見学、実習等による望ましい勤労観・職業観の育成</p> <p>2 教職員が生徒一人一人に寄り添い支援することによる自主自律の精神の育成</p> <p>(1) 相手を尊重する関係づくりに根ざした人権意識、規範意識の醸成          (2) 教職員が情報を共有し、一丸となって取り組む個々の生徒に対する心の支援          (3) 危機管理(交通マナーやヘルメット着用、ネットトラブル、防犯、自然災害等)に対する意識の醸成と危機回避能力の育成          (4) 特別活動や部活動の活性化による表現の場の保障と相互尊重の意識の醸成</p> <p>3 本校ならではの教育活動や関係機関との連携・協働によるイノベーターやグローバルリーダーの育成</p> <p>(1) SSH等を活用した大学等との連携・協働による指導方法の充実・深化          (2) 留学生との研修や台湾修学旅行等、これまで培ってきた本校ならではの教育資源の有効活用          (3) 保護者や地域社会、同窓会に本校の取組について理解を得ることによる外部環境の充実          (4) 戦略的な広報活動や探究活動の取組推進による意欲的な生徒の確保</p> <p>4 「働き方改革」を念頭に置いた業務改善及び、外部専門家の活用、学校行事の精選、職場環境の向上</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	本校の教育目標を理解している。	カリキュラム・マネジメントの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSH事業を軸足に据えた教育活動を推進し、各取組のブラッシュアップを図る。</li> <li>・SSH第Ⅱ期申請に向け、取組の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携、小高連携等、新たな外部機関との連携に取り組む。課題研究の質的向上を図り、外部発表会等で成果を残す生徒を育成する。</li> <li>・新聞や各種研修等において知り得た有効な情報は、止めずに積極的に担当部署との共有を図る。</li> <li>・職員の指導力向上のため、SSH事業に関する年3回以上の職員研修を実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○山鹿小学校での水泳指導やEnglish World tourへの協力、かもと稲田支援学校との交流活動を行った。</li> <li>○スポーツ健康科学コースは、定期的に大学との連携事業に取り組んだ。</li> <li>○1月末時点で生徒の対外的なコンテスト、発表、行事等への参加はのべ657名、前年度末時点が617名から増加した。</li> <li>○職員研修、職員会議でSSHⅡ期申請に関する情報を共有し、申請も無事終了した。</li> <li>○保護者へのアンケートでは、SSHへの肯定的意見が9割を超えた。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の探究型クロスカリキュラム実施率100%（1人2回）を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修等を通じて教職員の意識高揚を図り、教職員が気軽にクロスカリキュラム等に取り組めるような雰囲気構築する。</li> <li>・取組内容の改善を図るため、クロスカリキュラム実施の記録を徹底し、活用する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○年度当初に職員研修を実施することで職員の意識が向上し、上期での各職員2回以上のクロス授業の実施がほぼ達成できた。</li> <li>○下期においても、引き続き実施を呼びかけており、テーマクロスに取り組む職員も現れている。</li> <li>●入試問題・課題研究テーマをもとにした授業は、進捗がやや遅い。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの新たな活用に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用推進リーダーを各学年に配置し、効果的な活用を行う。</li> <li>・生成AI等に関する研修を実施し、活用を研究する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年1名の情報活用推進リーダーを配置し、ICT機器の管理を丁寧に行うことができた。</li> <li>○1学期に生成AIに関する職員研修を実施した。</li> <li>●生成AIの活用については、今後も情報収集を進めながら、考えていく必要がある。</li> </ul>
学校運営協議会（総合型）が機能している。	年3回の協議会で、委員からの意見の聴取	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の重点取組を提示し、協議の柱を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の課題研究発表や授業見学等を協議会の中で計画する。</li> <li>・協議会で使用する資料は、事前に委員に郵送する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒との第2回では、代表生徒と委員の意見交換の場を設け、委員の方々に生徒の実態を感じていただくことができた。</li> <li>○委員会での資料は事前に送付した。</li> </ul>	

	組織体としての一体感が醸成されている。	職員の連携・情報共有、協力体制の整備、管理職への報告・連絡・相談の徹底	・運営委員会の議題等は部会等を通じて確実に全職員で共有し、課題解決に向け、各部・各係の連携強化を図る。	・各部署で得た情報は個人情報に配慮しながら積極的に発信し、共通理解を図る。 ・組織的な動きの中で、各部を越えた協働作業を推奨し、支援する。 ・個々の職員のアイデアや積極的な取組を推奨し、支援する。	B	○運営委員会を中心に、課題や情報の共有を進めた。 ●一部主任・主事に業務が偏っているとの職員からの意見もあり、更なる連携・協力体制の構築が必要である。
	積極的に業務改善を図り、職員の働き方改革に取り組んでいる。	一步踏み込んだ業務改革の推進	・校務全般を見直し、スクラップアンドビルドに学校全体で取り組む。 ・教育業務支援員の効果的な活用に取り組む。	・各部で企画・実施する行事については、費用対効果や前年の反省を検証する等、積極的に見直しを図る。 ・事務部と協力し、働き方改革に向けた物品の整備に取り組む。 ・業務依頼書等を作成し、業務を依頼しやすい環境を整備する。	B	○各分掌において、前年度の企画実施後のアンケートを参考に改善が行われていた。 ●予算の都合があり、物品の整備は不十分なところがあった。 ○各職員が積極的に教員業務支援員に業務を依頼し、活用が進んだ。
		職員の休暇取得率向上	・昨年度からの取組の徹底を図ると共に、新たな働き方改革につながる取組を提案し、職員の年休等の取得率向上を図る。	・月2日の定時退勤日の徹底を図る。 ・月の勤務時間外の業務従事時間を一人当たり2時間削減する。 ・職員の年間の年休取得日数平均12日以上を目標に、積極的に管理職からの声掛けを行う。	A	○衛生委員会を通じ、職員の勤務状況の把握を行い、管理職面談等を実施した。 ○11月までの時間外業務従事時間はすべての月で、昨年度から減少した。 ○1月末時点での年休の平均取得日数は約10日であった。
学力向上	教育目標に沿った教育課程が編成され、教職員の共通理解により適切に運用されている。	適切な教育課程の編成	・学習指導要領の趣旨を踏まえながら、生徒にとってより良い教育課程となるように教育課程の編成を行うとともに見直しを行う。	・県の教育課程研究協議会の復講を各教科で確実に行い、協議会の内容を踏まえながら教育課程検討委員会で検討するとともに、新課程の学習評価についても引き続き情報収集及び研究を行う。	B	○県の教育課程研究協議会の復講とともに、教育課程の変更も行った。また、観点別学習評価についても、引き続き情報収集や研究を進めていく。

	教育課程の適切な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等の早期把握に努め、適正な授業時間の確保に努める。</li> <li>・定期考査問題や観点別学習評価の精度を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教科シラバスを作成し、生徒に提示する。</li> <li>・他の部署と連携した行事設定をする。</li> <li>・各教科で考査問題や評価についての検討時間が十分に確保できるよう、働き方改革を推進する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教科のシラバスをクロムブックで生徒に提示することができた。</li> <li>○曜日調整や行事の設定については、現在も行っているが、今後も継続して行っていく。</li> <li>○各学期末の3日程度を45分授業にし、評価についての検討時間を確保することができた。</li> </ul>
適切な学習指導がなされている。	分かりやすい授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業、授業公開、授業評価アンケートを他の部署と連携し計画・実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の指導教諭等を招き、研究授業を年1回以上実施する。</li> <li>・授業評価アンケートを年2回実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究授業や公開授業を通して授業力の向上につながった。公開授業に関しては、外部の参観者が少なかった。</li> <li>○授業評価アンケートを2回実施した。クロムブックを活用することでとりまとめをする担当者の業務の負担軽減につなげることができた。また、授業者個人での評価を確認してもらうことができた。</li> </ul>
	個に応じた適切な指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰一人取り残さない指導の充実を図る。</li> <li>・学習支援ツールを活用し、基礎学力の養成を図る。</li> <li>・手帳を効果的に活用し、家庭学習時間の確保に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業中の特別補習授業を計画し実施する。</li> <li>・スタディサプリを活用して各教科の小テスト</li> <li>・到達度テストを計画的に実施し、主体的な進路選択に必要な基礎学力を養成する(全学年)。</li> <li>・手帳の記入を通して、自己の生活や学力を客観的に捉える力を育て、主体的・計画的に学習に取り組む姿勢を涵養する。(全学年)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏季と冬季休業中に特別補習授業を計画し実施することができた。該当生徒の取り組み方も概ね良好であった。</li> <li>○各学年の協力により、朝の小テストは計画通りに実施できた。</li> <li>○担任・副担任を中心に、定期的に指導を行い、定着しつつある。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望に応じた個別指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディサプリを利用し、進路希望先や選抜方法に対応した指導の充実を図る。</li> <li>・全職員が協力することにより、難関大対策、推薦・総合型対策の個別指導を充実させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○スタディサプリの進路別活用は、まだ個別に対応にとどまっている。小論文・面接指導は、全職員で対応することができた。</li> </ul>
		授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行う。（クロスカリキュラムの実践100%の継続）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元配列表を作成する。</li> <li>・クロスカリキュラム、問いを創る授業に関する職員研修を年2回実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Ⅱ期に向けた新しい形のクロス（生徒の研究または入試問題を題材）を実施できた。</li> <li>●教員への周知・説明が不十分だった。</li> </ul>
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の組織的推進が図られている。	キャリアパスポートの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルの指導の実践を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポートを活用し、適宜自己の振り返りを行わせ、深い自己理解に基づいた主体的なキャリアプラン構築へつなげる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○面談時間の確保と手帳の活用により、以前よりも個別の振り返りの機会が増えている。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学習や進路ガイダンスへの参加率を80%とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターシップ・看護体験を実施する。</li> <li>・出前講義・進路ガイダンスを年間10回実施する。</li> <li>・クラスルーム等を通じて積極的に参加を募り、実施内容についてはHPで報告する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○OBを中心とした出前講座や、半導体人材育成事業の活用により、昨年よりも多くの参加者を募ることができた。</li> </ul>
	進路情報や個人的資料が収集・活用されている。	進路決定の参考になる資料の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試の情報整理と共通テストに向けての対策を研究する。</li> <li>・外部講師を招き、進路講話を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学の入試説明会等を活用し情報収集を行う。</li> <li>・小論文対策や受験指導について、外部講師（オンライン含む）による講話を年間3回以上実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年々変化する大学入試をとりまく状況については、適宜情報提供することができた。</li> <li>●オンラインの小論文講座や、入試動向説明会の案内を行っているが、参加数は少ない。</li> </ul>

		進路検討会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試結果の分析と定期的な進路情報の提供を行う。</li> <li>・各学年の進路検討会を定期的に行い、模擬試験結果の分析と情報共有を行う。</li> <li>・大学入試問題研究の研修を行い、教科の枠を越えて入試情報の共有を図る。</li> </ul>	B	○明確な目標を設定したことで、学年全体で目標を共有し、教科を越えて全員で指導していく雰囲気醸成されつつある。
	進路相談が適切に行われている。	個人面談の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、計画的に二者面談、三者面談を推進する。</li> <li>・1年生では、家庭訪問等を実施する。</li> <li>・年間3回の面談週間を設定し、十分な面談時間を確保する。</li> <li>・早めに日程調整に取りかかる。</li> </ul>	B	○学期初めの面談期間の確保により、担任との対話の機会は増えている。次年度は、担任以外の教員と面談する巡回面談を企画し、生徒の視野を広げたい
生徒指導	学校全体で生徒指導に取り組む体制が整備されている。	「鹿本高校生徒心得」（校則）を基盤とした基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校三綱領をもとに、生徒が自ら考え行動する姿勢を身につけるための支援を行うとともに、定期考査後（年5回）の学年集会で講話を行い、意識を高める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の意識は高まっている。</li> <li>●集団になると軽はずみな行動を取ることがある。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鹿本高校生徒心得」（校則）について、学期に1回生徒会役員の意見を聞き、適宜見直しを行う。</li> <li>・アンケートや生徒会との意見交換の場を設定し、校則を時流に沿ったものにする。</li> </ul>		
	規範意識の向上に向けた指導を行っている。	全職員の共通理解の下での、全校集会や学年集会における指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査後の学年集会（年5回）で指導の徹底と生徒の規範意識向上を図る。極力全校集会等の実施を行うことがないように日常の指導の徹底を行う。</li> <li>・挨拶、授業態度、掃除等の日常生活を通して、些細な部分も見逃さず、全職員が協力して指導をする。</li> </ul>	B	○概ね良好。挨拶、掃除の取組等もっとできるはずと期待している。

	安全への意識向上に向けた指導を行っている。	自転車二重口ック及びヘルメット着用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車通学生及び単車通学生の交通安全指導を徹底し、交通事故</li> <li>・交通違反件数を昨年度（5件）以下にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルメット完全着用を実施する。</li> <li>・単車通学生には実技講習会を実施する。</li> <li>・通学別に集会を実施し、交通ルール遵守やマナーアップについて指導する。</li> </ul>	A	○命に関わる大きな事故等も幸いなく、概ね良好である来年度から実施される自転車青切符の制度について安全教室を実施した。
	保護者や地域社会との連携が整っている。	PTAとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や地域の行事等に積極的に参加することで、情報交換や連携を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山鹿市青少年育成健全大会や山鹿市主催のボランティア等に参加し、地域との関わりを密接にする。</li> </ul>	A	○多くの生徒たちが積極的に参加してくれた。
		近隣校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣校との情報交換を積極的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則等について、他校と積極的に情報交換を行い、地域との一体感醸成につなげる。</li> </ul>	A	○原付制度の変更や学校の現状など情報交換を行うことができた。
	生徒の自主的・自発的な活動がなされている。	生徒会活動、各委員会の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身が動きやすい組織づくりを推進し、生徒会主催行事の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会を委員長主導の形で運営する。</li> <li>・企画運営等は生徒主導で行う。</li> </ul>	B	○新たな企画等積極的な動きがみられた。準備等の計画性に課題があり改善していきたい。
		部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の部活動の活性化のため、部活動の精選に取り組み、現在の部活動数から1～2減らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動開始時間と活動終了時間の厳守に努める。</li> </ul>	B	○精選については顧問会等を経て多くの意見を集約し、現在進めている。 ●下校時間が若干守れていない所がある。
人権教育の推進	人権意識の向上に向けた取組をすべての教育活動を通じて行われている。	職員研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の人権感覚の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒理解研修を年2回実施する。</li> <li>・人権教育に関する外部研修を一人一回以上受講する。</li> </ul>	B	○課題解決シートも活用が始まった。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他を大切に尊重できる生徒を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SCによる職員研修を実施する。</li> <li>・研修の成果を生かし、個に配慮した指導を行う。</li> </ul>	●教職員の人権感覚をさらに高め、発言内容を常に意識していく必要がある。		

	豊かな人間関係づくりに向けた指導ができています。	一人ひとりの生徒が尊重される環境づくり	・生徒の自主自律、自己決定能力、コミュニケーション能力を高める指導を行う。	・心のアンケート、心と体の振り返りシートを活用した実態把握と支援を行う。 ・ソーシャルスキルトレーニングをSCの助言を仰いで実施する。 ・人権教育講演会を実施する。	B	○「振り返りシート」(1学期)・「心のアンケート」(2学期)や面談による実態把握・支援を進めた
	命を大切にすることを育む指導に取り組んでいる。	人間としての在り方・生き方の自覚の深まり	・生徒の自己肯定感を育成する。  ・人権教育LHRの充実を図る。	・教育相談やカウンセリング体制を充実する。 ・様々なストレス対処やSOSの出し方に関する指導を推進する。 ・自己肯定感を高めるソーシャルスキルトレーニングを年2回実施する。 ・人権教育LHRを各学年3回以上実施する。	B	○発達段階に応じ、自他を尊重する取組み、差別や偏見を許さない学びができた。 ●学校の言語環境を整えるために、まずは教職員が模範となるような言葉遣いをするよう意識を高めたい。  ○SC通信よりも常に生徒と教職員が会話を行うことで、生徒把握に努めている。
いじめの防止等	インターネットや携帯によるいじめなどの防止に努めている。	教師と生徒の双方による現状の理解	・情報モラル教育の充実・徹底を図る。  ・生徒会による「いじめ根絶運動」を促進する。	・外部講師による情報モラル講演会を実施する。  ・各クラスの代議員を中心に、生徒の自発的な取組となるよう支援する。また、保護者との連携強化を図る。	A	○計画的に実施することができた。  ○心のきずなを深める標語で奨励賞を受賞するなどいじめ防止について考える取り組みになった。
	いじめを未然に防ぐ体制・意識が確立されている。いじめを未然に防ぐ体制・意識が確立されている。	いじめ問題検証委員会の活用及びネットいじめ等、早期対応推進事業の活用	・「いじめは必ずある」との前提に立ち、学年間での情報交換を密にし、常にアンテナを高くしていじめ等の未然防止に取り組む。	・スクールサインへの登録を奨励する。 ・あらゆる教育機会を通して、「相談することは正しい行為である」という認識を持たせる指導を行う。 ・学年内・学年間での密な情報交換を行い、未然防止に努める。	B	○担任、学年団等での対応により、大きなトラブル等は起こっていない。



行われている。	地域資源の活用及び地域団体・地域住民との交流促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数探究やSS探究科目において、生徒の小中高連携など地域との連携事業を学期に1回実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数探究やSS探究科目において市町村役場、小学校や中学校、地域事業所と連携した授業を実施する。</li> <li>・One teamプロジェクト事業を通じた地域の県立高校、地元企業との交流事業に生徒を参加させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○oneteamプロジェクト、体育科の小中高連携事業、英語科の小中学校での交流事業は恒例となり、安定して実施できている。企業講話は改善を加え、より現状に沿う内容にした。</li> </ul>
保護者や地域の方々の学校の活動内容への理解が進んでいる。	学校の将来を見据えた戦略的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HPの定期的な更新を行うとともに、閲覧する側の視点に立ったHPの改善に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総務部広報班がリードし、閲覧する側の視点に立ったHPの改善を図る。</li> <li>・全職員の協力を呼び掛け、HPを作成する。職員のHP更新のサポートを積極的に行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全先生方の協力で、HP更新など内容を充実できた。</li> <li>○「しかモン」人気を活かす活動ができた。</li> <li>●「鹿本高校News」は、引継ぎの不十分さがあり、やや活動が低調であった。</li> <li>○生徒募集委員会を核とし、オープンスクールの実施や中学校への訪問を実施した。</li> <li>●学習塾への訪問も実施したが、今後は訪問先や回数を増やしたい。</li> <li>○PTA総会時に行った公開授業には100名を超える保護者の参観があった。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスコットキャラクター「しかモン」を効果的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等への登場機会を拡大する等、広告塔として積極的に活用する。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な広報活動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校広報誌「鹿本高校News」を月1回発行する。</li> <li>・PTA文化広報進路委員会を定期的に関き、PTA新聞「めいりん」を発行する。</li> <li>・総務委員が必ず複数で活動に取り組み、引き継ぎに備える。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、情報発信のターゲットを明確にし、戦略的な広報活動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員のアイデアを積極的に生かし、生徒募集委員会と連携し、組織的な広報活動を展開する。</li> <li>・近隣中学校及び学習塾への訪問を行い、本校の様子を発信する。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校や保護者に向けて公開授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会時に公開授業を行う。案内は可能な限り早めに出す。</li> </ul>		

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談体制やカウンセリングなどに関する周知を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時やPTA総会において、本校の教育相談体制やカウンセリングについて説明する。</li> <li>・SC通信の発行により啓発を行う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「振り返りシート」（1学期）・「心のアンケート」（2学期）や面談による実態把握</li> <li>・支援を進めた</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通した進路指導年間計画の改善と周知を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路通信、進路のしおりを発行し、進路指導に活用する。</li> <li>・保護者集会やHPを通じて、進路関連情報を積極的に提供する。</li> <li>・中学生向け説明会やオープンスクールにおいて、中学生とその保護者に向けても進路情報を提供する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路通信・進路のしおりは計画的に発行できた。</li> <li>○山鹿地区合同での中学生向け説明会では、例年より多く参加者を集めることができた。</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSH事業、授業、教師や生徒を紙媒体及びウェブサイトで広報する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の授業やSSH事業、そして様々な優れた取組を取材し、月に1回以上通信を発行、もしくはウェブサイトの記事に掲載する。</li> <li>校内の授業やSSH事業、そして様々な優れた取組を取材し広報する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウェブの更新、SSH通信の発行は定期的に行うことができた。</li> <li>●更新や発行が追いつかないことがあった。</li> <li>校内でのアピールが不十分だった。</li> </ul>	
保健安全管理	健康教育の推進	健康課題をもとに生徒保健委員会活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員の自主的な活動と啓発活動を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンペーン活動や文化祭の取組、保健だよりを定期的発行する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予定していた内容を実施することはできた。</li> <li>●生徒保健委員が部活動や生徒会等で多忙であり、取り組む時間の設定に苦慮した。</li> </ul>	
		学校保健委員会の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会を年1回開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校医、PTAと連携し3学期に開催する。</li> </ul>		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在2月の実施に向けて、資料作成等を進めている。保健主事と連携して、内容を検討していきたい。</li> </ul>
		講演会等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科と連携し、計画的に健康教育、性教育関連の講演会を1回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性教育講演会、薬物乱用防止教室、熱中症予防教室を実施する。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保健体育科と連携し、講師の選定や内容を検討することができた。</li> <li>生徒のアンケートや感想からもためになったという意見が多かった。</li> </ul>

	安全点検や環境美化に関して積極的に業務改善を図る。	安全点検の実施と改善と点検方法の簡素化を図る。	・学期に1回、校内安全点検を明確にして100%実施する。	・点検率100%を達成する。 ・校内の不良箇所について、事務部と連携して対応策を検討する。	A	○全職員に実施してもらっており、危険個所は事務部が迅速に対応している。また、冷暖房不良の教室も年内に予算がつき改修予定である。
		美しい学校づくり	・校内の美化活動を推進する。	・美化活動に取り組む。		○臨時技師が毎日環境美化に取り組んでいる。 ●学校全体での美化活動への意識が低い。
		環境に配慮した学校運営を行う。	・環境ISO宣言に基づいた取り組みについて、前年度比1パーセント削減を目標にする。	・環境美化委員会を中心に、環境ISO宣言に基づいた取り組みを行う。 【職員】印刷用のコピー用紙を令和6年度比1%削減する。 【生徒】水道使用量を令和6年度比1%削減する。	C	●数値目標をどちらも達成できなかった。 ●環境ISO宣言に基づき職員、生徒への取り組みを依頼していたが、周知徹底できていなかった。年度途中で確認して中間評価をするなど対策が必要だったと反省している。
教育環境整備	施設設備の安全・維持管理のための点検整備がなされている。	安心して教育活動に取り組める環境づくり	・安全で整理整頓された敷地・校舎の維持管理に必要な対策を行う。	・根本的な施設設備の維持管理、改修等については、県の長寿命化プランや営繕工事計画に基づき、計画的に進めていく。 ・今年度設計予定の体育館の外部改修工事について、学校の要望等を把握し、関係各課や業者と綿密に協議を行っていく。 ・緊急対応事項や営繕工事計画に掲載されていない事項は、校内巡視や職員等からの要望を踏まえて随時把握し、学校全体で対応する。 ・生徒や教職員が安心・安全かつ快適に教育活動に専念できるよう、迅速かつ丁寧に対応していく。	B	○予算が確保できた営繕工事について、計画通りに施工できている。 ●予算上や部材の確保の関係で、次年度以降に持ち越された案件もあるので、引き続き要望していく。 ○安全点検の結果や巡回を踏まえ、迅速な修理対応ができた。

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・UD化を意識した安全で整理整頓された敷地を維持する。</li> <li>・校内が常に安全を確保されるように適切に維持管理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UD化を意識した掲示物の貼り方を実施し、各クラス統一した掲示方法にする。</li> <li>・校内の不良箇所について、情報を収集し、事務部と連携し1週間以内に対応策を検討する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○常勤職員へは年度途中でも確認できたことでUD化を達成できていた。</li> <li>●非常勤職員への周知ができておらず、前の黒板へ宿題を書いたままのことがあった。今後周知していきたい。</li> </ul>
図書館教育	メディアリテラシー能力（情報を評価・識別する能力）を育てる。	読書習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間貸出冊数生徒一人あたりの平均6冊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物や図書館だよりを工夫する。</li> <li>・週1回朝読書時間を確保する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館前掲示は毎日更新した。科学的なトピックスに力を入れた。</li> <li>●貸し出し冊数が伸びなかった。</li> </ul>
		学習、探究、情報センターとしての図書館づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の有効活用を推進する。（年間150時間）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数探究やその他の授業の取組と連携し、週に1回以上授業で図書館を活用する。授業等で活用しやすい図書館にするため、レイアウト等の工夫を検討する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○理数探究の調べもののために図書館が活用されることが増加した。</li> </ul>

<h4>4 学校関係者評価</h4> <p>○教職員が生徒・保護者との関係作りに心を砕いて教育活動に取り組んでいる成果が表れている。</p> <p>○全体を通して今年度の自己評価が厳しめな印象を持った。</p> <p>○数値目標を掲げ、達成できていない項目がCということは致し方ないかと思う。</p> <p>○ホームページの更新だけでなく、告知する方法まで考えていく必要がある。</p> <p>○台湾への修学旅行で、現地の高校生交流はとても良い経験になったと思う。</p> <p>○学校評価アンケートの結果を見ると、学年が上がるにつれ、数値が上がっている傾向が見られ教職員の指導への理解が得られていると考えられる。</p> <p>○校則の見直しや学校行事の改善など、時代の変化や社会のニーズに応じた対応が進められており、生徒とともに学校運営が進められていると感じた。</p> <p>○科学部の海外でのコンテストでの入賞や、地域の活動など生徒たちが活発に動いていることが素晴らしい。</p> <p>○校内を見て回ったが環境はよく管理されている。環境美化の評価は限りになくBに近いCという認識を持っている。</p> <p>○鹿本高校の教育自体も本当に進化しているということを感じた。</p> <p>○学級の減少や高校の授業料完全無償化で、私立への流れもあると思うが、基本を大切にしていってほしい。</p> <p>○校則の見直しは、生徒主導で主体的に進めて、学校とも協議しながら必要なプロセスを経た合意形成をやっていくという民主的な進めかたで進めていただけたらありがたい。</p> <p>○課題研究における生成AIの利用など、活用できるものは上手に使ってほしい。取組を通して新たなアイデア等が生まれると思う。</p>
---

## 5 総合評価

### 1 本年度の学校教育目標

SSHⅠ期5年目を迎え、年間を通しⅡ期申請に向け職員間の協力体制が構築された。対外的な発表や活動に参加する生徒も継続的に増えている。本校の柱の一つである教科横断的学びについては、今年度各職員2回のクロス授業の実施に加え、課題研究のテーマや入試問題を用いたクロス授業、1つのテーマをもとに複数の教科でテーマに沿った内容を扱う「テーマクロス授業」の実施など、新たな取組を実践することができた。学校評価アンケートでも、「授業が工夫されている」と答える生徒の割合は、年々増加している。

また、生徒の外部大会への出場やコンテストへの応募総数も昨年度より増えており、生徒の活動は活性化している。特に今年度は、科学部がサイエンスキャスルアジア大会で入賞し大きな確実に成果を得ることができた。

SSH第Ⅱ期指定に向け今後も本校ならではの取組を実践し、学校の魅力化に取り組んでいきたい。

### 2 本年度の重点目標

SSH事業を中核に据えた教育活動の成果として、学校推薦等を利用した国公立大学への合格者数や理系学部への進学者数の増加が挙げられる。また、学校評価アンケートにおいて「SSHの取組が学習の深まりや進路目標の達成役立っている」と9割以上の生徒が評価している。

職員の働き方改革については、年休取得日数の目標達成、時差出勤の推進、時間外業務時間の減少を目標に挙げ、それぞれの項目でおおむね達成できた。職員アンケートの結果も前年度より改善はしているが、これをゴールとせず継続して改善に取り組むたい。また、生徒・保護者にも理解を求めながら、働きやすい職場づくりを進めていく。

### 3 自己評価総括表

学校運営協議会で各委員から出された意見等を踏まえ、今年度は大項目「学力向上」の中の「分かりやすい授業の実施」、「地域連携」の中の「学校防災体制の整備」と「奨学金の活用」、「保健安全管理」の中の「生徒保健委員会の活性化」の4項目を自己評価から引き揚げた。学校運営協議会の委員からは、自己評価が全体的に厳しいとの感想をいただいた。各教職員が本校の現状に満足せず、改善の余地が残されているという認識があることを反映したものであり、運営協議会委員の方は、客観的に見てもっと評価をあげていいとの意見も頂いた。「環境美化」で数値目標が達成できずC評価となり次年度は重点的に改善を図っていく必要を感じている。

## 6 次年度への課題・改善方策

今年度「探究する生徒の育成～学びを深める自分だけの『問い』を持つ～」を教育スローガンとし、授業改善、進路指導、生徒募集を重点事項として取り組んだ。

授業改善では、SSHⅠ期指定の最終年でありⅡ期申請に向け、生成AIの活用や指導教諭を講師に招へいした職員研修の実施、クロス授業の新たな手法の展開を行い、Ⅱ期に向けた準備を学校全体で行った。次年度は、今年度の実践の反省を踏まえ更によりよい形にしていき、魅力ある学校づくりを推進していきたい。

進路指導に関しては、前年度までの反省を生かした指導を行った結果、進路実績には改善が見られた。近年の取組については、形あるものになってきており、実績をあげた年と振るわなかった年について比較・分析を行い、次年度の更なる改善に結びつけていく。

生徒募集では、学校運営協議会内でも地域の少子化や、県立高校の計画的学級減、私立高校の授業料無償化等の話題が上がり、今後を10年20年先の学校の在り方について心配される声も上がった。また、高校入試の出願数においても前年度を下回った結果となった。次年度は本校がこれまで実践してきた教科横断的学習や探究活動等の成果や、進路指導の実績等を来年度は更に効果的に発信しながら、活発に生徒募集への取組を実践していく必要を感じている。

3回の学校関係者評価委員会では、授業・校内見学に加え、今年度新たに代表生徒と委員との意見交換の場を設定し、各委員に生徒の生の声を聴いていただいた。主に生徒会を中心とした生徒の取組を見ていただき、本校の現在や未来のことについて、親身になって考えていただいている。次年度は更に熟議できる会とし、学校の取組改善につなげていく。